



どう だ ん つ つ じ

満天星

第 8 号 令和2年11月25日



QRコード
智頭小学校ホーム
ページへアクセス

地域に開かれた学校 から 地域とともにある学校へ

校長 氏橋 俊司

学校にお招きした地域の方から、智頭町の自然や産業について熱心に聞き取る6年生。算数のかけ算九九の練習として、来校くださった地域の方に覚えてきた九九を大きな声で聞いてもらう2年生。マラソン大会で沿道の応援の声に気持ちを奮い立たせ、緊張しながらも走りきって涙する4年生。毎朝交通指導で立ってくださる方々に元気よく挨拶する1年生。コロナ禍であっても地域や家庭のご支援のもと、教育活動が無事進められていることに感謝申し上げます。そして、本校の教育目標である「夢に向かってのびる杉っ子」に着実に近づいていることを心からうれしく思います。しかし昨今、学校現場は多くの課題や不安要素を抱えているのも事実です。自己有用感をいかに高めていき、地域社会に貢献できる人材を育成するか。主体的な学習意欲をどのように高めるのか。そして、メディア利用の望ましいあり方を身につけさせるには等々、学校教育が以前とは異なる状況になりつつあります。あわせて、教職員の時間外労働の多さと過労状態も問題視されています。学校が担う部分が增大してきたため、これまで当たり前に行ってきた教育活動も根本から見直し、児童にとって質が高く価値あるものになっているのか、学校行事なども大がかりに検討しているところです。



地域の方に九九を唱える児童

現在、鳥取県内の多くの小中学校では、地域とともにある学校をめざし「学校評議員会」から「学校運営協議会」へと移行しています。本校でも、これまで「学校評議員会」という形で、より地域に開かれた学校づくりを推進するべく、地域や保護者の皆様の中から学校運営についてご意見やご助言をいただいてまいりました。そして、令和4年度からは、この「学校評議員会」を移行し、いよいよ「智頭小学校学校運営協議会」（以下、「コミュニティ・スクール（CS）」と表記）となる予定です。

「CS」では、学校運営への意見や助言に加えて、さらに一定の「権限」と「責任」があり、学校運営への参画と協働が求められます。このことにより、地域や保護者、そして学校が双方向の信頼関係を深め、当事者意識を高めながら魅力ある学校づくりを推進し、子どもたちの確かな学びと豊かな育ちを創造することを目的としています。

校長は協議会において、学校運営方針、教育課程、学校行事等について、委員（地域や保護者の皆様からお願いした方）に説明し、承認を得ることになっています。そのため、より保護者や地域の皆様のお考えや願いが反映され、一体となった学校運営がなされることとなります。

このようにして、智頭町の子どもたちの将来を見据え、どのような子どもたちを育てるのか、そのために何を実現していくのかなどを相談し、地域総がかりでじげの子どもを育てるのが「CS」です。別の言い方をすれば、児童の姿を中心に据え、地域・家庭・学校が一丸となった「チーム智頭小」の新たなスタートと言えます。本町には潜在的なエネルギー、そして人的パワーが豊富にありますので、とても楽しみに感じます。来年度は準備の年となります。また、本校にとっても統合後10年目の節目の年となります。

皆様のご理解と今後のご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。

*コミュニティ・スクール(CS)とは、学校運営協議会を設置している学校のことです。

